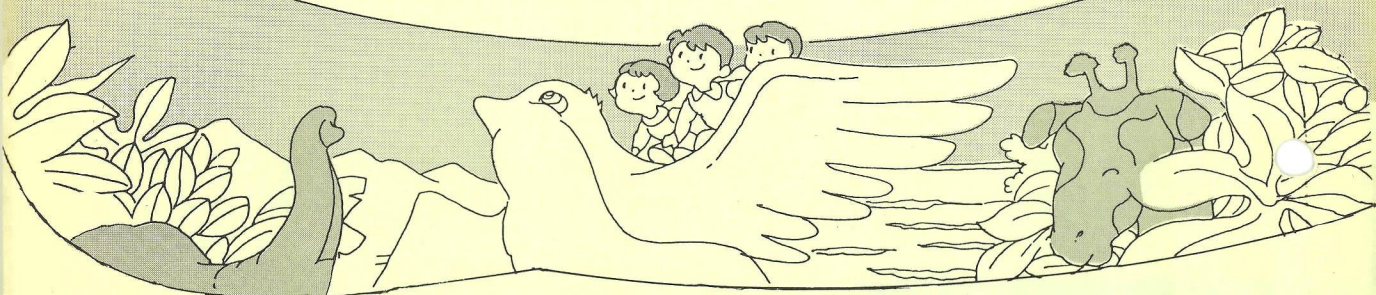




月刊 会報

リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい



古紙…じゃなくて 古誌のはなし

読書の季節ではないですが、雨が2日も続くと外出する気がうせて、ついつい蔵書に手が伸びることが多い時期となりました。活字ばかり見ていても疲れるので、社会見学もかねて重い腰を上げ、近くの古本屋へ足を運びました。看板には「リサイクル書店・コミック専門」とあります。中へ入ると、文字通りコミック誌が所せましと置いてあります。たまたま客が自分一人だったので、店長さんに話を伺いました。

話によると少年コミック誌は10円から50円ぐらいで客から買って、50円前後で売っています。人気の商品が回転が良いので利益は出るけれど、大半は仕入れてもほとんど売れることなくそのまま棚の奥にしまわれ、最後は店とは別の場所に借りているトラックルーム行きとなるのです。そちらの保管料や店の経費を考えるとそんなにもうかりませんと言っていました。また普通の書店と違い、返品がきかないので、買い取りには気を使います。それと女の子は立ち読みしても、まず買わないので少女コミックは扱わないとのこと。たまたま古紙回収業者が本を持ち込むこともあるそうですが、仕入れの大半は少年たちが読み飽きた本や、売れ残り

の新刊本です。

景気の影響で大人向けの月刊誌等が部数を減らしたり、廃刊しているなかで、子供向けのコミック誌は順調に売り上げを伸ばしていて、文庫本を扱うよりはまだコミック誌を扱っている方が、商売としてはうまく行きます。こんな所に若者の活字離れが反映しているのかと思うと複雑な気持ちになります。そして数回読まれただけで、持ち主の手を離れおそらくそのほとんどがゴミと化してしまう数々の雑誌たちの運命を思うと、文化・文明とは何ぞやとつい大げさなことを考えてしまいました。

そして、資源として再生されるのも一つなら、他人の手に渡り脈々と生き続ける古本もまた、リサイクルの一端を担っているのだなと今更ながら確認した1日でした。

(組合員・山岡秀明)

牛乳パックのリサイクル

皆さんが集めてスーパーなどに持ち寄った牛乳パックは、古紙回収業者が集荷し、古紙問屋を経て製紙工場に運ばれ、主にトイレット・ペーパーとなります。

静岡県富士市の丸富製紙で牛乳パックが再利用される工程を取材してきました。

この工場は古紙を月に6500t使用し、その内回収された牛乳パックは600tです。月に4500tのトイレット・ペーパーを作ります。

牛乳パックはパルパーと呼ばれる直径8mほどの大きなカマに入れられ、大量の湯と共にかき回して紙の繊維をほぐしていきます。このときパックの面に貼ってあるポリエチレンは自然にはがれていきます。溶解されどろどろになった牛乳パックは、異物を取り除かれパルプと呼ばれる紙の原料となります。

牛乳パックを溶かしたパルプは、カタロブなどの上質紙を溶解したパルプと混ぜ合わされます。(牛乳パック)

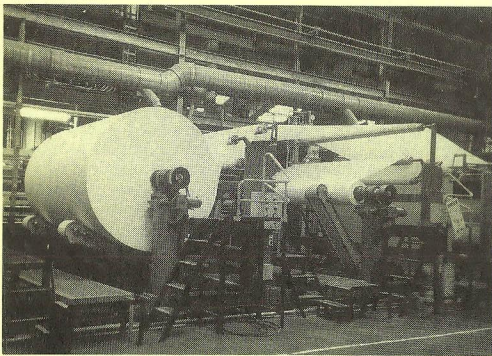
クと上質紙のパルプの割合は35・65だそうです。混ぜ合わさったパルプは細かい異物を取りながら繰り返し洗浄を行い、印刷時のインクを取り除き、漂白・殺菌され再び洗浄をして抄紙機にかけられます。

抄紙機は縦横10m、奥行150m程の大きな機械で、この中に幅約5mの網のコンベヤーが、毎分10000mの速さで回っています。この網にパルプを乗せると、ほぐされた繊維が再び絡み合い、薄く伸びて行きます。

紙状に伸ばされたパルプは、熱い蒸気で乾燥してから巻き取られ、直径2m、幅4m程のジャンボ原紙となります。このジャンボ原紙をトイレット・ペーパーにするために、ミシン目を入れながら小さな紙管に巻き直します。(2枚重ねのトイレット・ペーパーは、2つのジャンボ原紙を重ねながら巻いて行きます)

巻き直した紙は、約12cm幅についで裁断して1つのトイレット・ペーパーと成ります。

ジャンボ原紙



ます。そして4ロールや12ロールなどにビニールパックをし、商品別に箱に積まれ倉庫に保管されます。

溶解から倉庫への保管までの一連の作業は、コンピュータ管理の全自動で行っています。

この工場は、商品製造時に出来る廃棄物も有効利用しています。1つ目は牛乳パックをパルパーで溶解したとき分離するポリエチレンの利用です。このポリエチレンを専用の焼却炉で自燃させ、出て来た熱で蒸気を作ります。そしてこの蒸気を、抄紙の最後に紙を乾燥させる時に使います。

2つ目はパルプを洗浄するときなどに出来るへどろの利用です。このへどろを

焼却して3mmほどの黒い粒にし、製鉄所に売却しています。

このように皆さんが集めた牛乳パックは、製紙会社によって無駄なく使われています。最近は今まで使われていなかった内側にアルミを貼ったパックや、茶色のパックも使用しています。(もちろん分別収集されたものです)しかし茶色の牛乳パックは、未漂白のパルプを使った物なので、これで作ったトイレット・ペーパーも、あえて漂白をせず薄茶色とするのですが、ス

ーパーなどの店頭に置いたとき、白い物と一緒に並んでいると、売れ残るということでした。

紙はもともと木から出来るので漂白剤を使っていない薄茶色が自然な色なのです。このことを分かっていたら、もっと使ってもらいたいと言っていました。そして牛乳パックを集めるだけではなく、牛乳パックで作ったトイレット・ペーパーを使ってもらうことが、本当のリサイクルの輪を作ることだと思ふることでした。

「スヌーピーと結」

情報過多、飛びかう憶測、無限大の好奇心、無表情な視線、私たちの生活の中で、特に「私は誰?」

ここはどこ?と自分自身を見失いかねない危ない瞬間がままありませんか?

誰かに助けを求めたくなったり、自己嫌悪に陥りそうになったり

した時、これからはチャーリー・ブラウンやスヌーピーの仲間たちに問いかけてみてください。ごく普通の



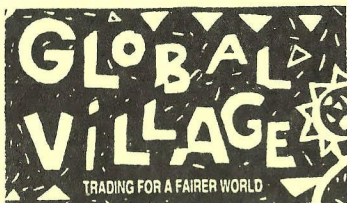
ラフな気持ちで読んでみてください。

発行 新潮社
定価 1600円

エコロジカルなカタログショッピングで
国際貢献をしよう!

グローバル・ヴィレッジ

グローバル・ヴィレッジは1991年に、当時横浜に住んでいたサフィア・ミニーさんが始めました。エコロジストな彼女が日本に来て一番驚いたことは、商品の過剰包装と、リサイクル・環境保護等の情報が少ないことでした。イギリスでは暮らしの中から環境問題や第二世界の問題に取り組む手段がたくさんあり、その中でもフェア・トレード(公正貿易)がありました。フェア・トレード商品は、第二世界の人々が生産した工芸品や、一次産品を公正な価格で買い受けることで、経済的自立をサポートするために輸入されています。そこでこのフェア・トレードを日本の皆さんにも知ってもらいたいと、この「グローバル・ヴィレッジ」を設立しました。



グローバル・ヴィレッジ(以下GV)では、年4回のニューズレターの発行と年2回フェア・トレード商品を手軽に購入できるよう、通信販売用「アース・カタログ」を作成し、無料で配布しています。このカタログは13ヶ国から輸入された126の商品が載っている他に、生産に携わる現地NGOや商品の背景について具体的な説明が書か

れています。

このフェア・トレード商品には寄付金がついているだけではなく、環境保護へのこだわりもなされています。例えばTシャツは、ジンバブエで生産されている綿の50%を無農薬有機栽培されているものであるし、文具品は再生紙や麻織紐くずからつくられているものです。コーヒーや紅茶も無農薬や低農薬商品です。

「アース・カタログ」の商品は無駄な物ではなく、ほとんどが日常私たちが使うものです。(この日取材に行った2人もフェア・トレード商品を買いました)

GVのスタッフは現在5名で、あとはボランティアスタッフです。会員は北海道から鹿児島まで約500名、サフィアさんやこの日話を聞かせてくれた小島さんも、もっと会員を増やしたいと言っていました。(会員の20%は外国人

の方で、カタログは英語版もあります)

「リサイクルデザイン」を読んでもらった人でGVに興味を持った方は左記へ問い合わせして下さい。

〒158 東京都世田谷区野毛

1の13の16

〒03-3705-0233

〒03-3705-0255

また横浜でもGVの商品を扱っているお店があるので紹介します。

●まあじよらむ

〒244 横浜市戸塚区品濃町の3フレンドビル11F

〒045-823-1493

●(旬)森の生活

〒221 横浜市神奈川区六角橋

1の4の5

〒045-432-0314

GVから「アースカタログ」を買ってききましたので欲しいという方に差し上げます。日本語版37人、英語版3人。希望の方は日本語・英語どちらか明記の上、100円切手を同封して送って下さい。

「リサイクルデザイン」を発行して初のプレゼント。GVから、紅茶・3回使える封筒・ポストカード3枚

セットをそれぞれ1名の方に。リサイクルデザインの感想を書いて左記へ葉書又は封書で。



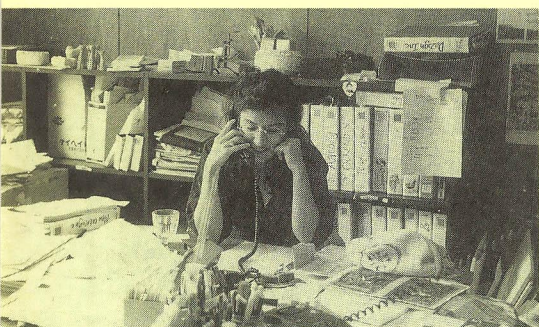
■締切りは8月31日。

あて先 〒220 横浜市西区

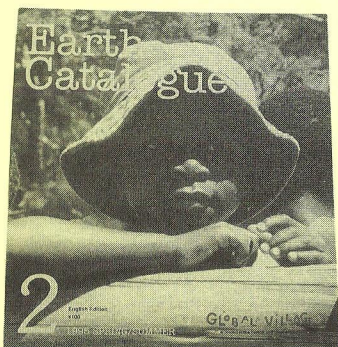
平沼1の33の1

東洋建物5F

横浜市資源リサイクル事業協同組合「リサイクルデザイン」編集部まで



▲サフィアさん



オフィス古紙 回収事業

5月回収実績
(参加企業13社)
14,060kg
でした。

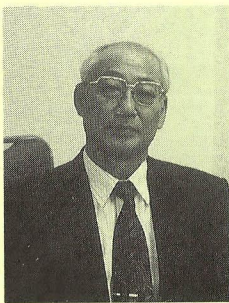
平成6年度回収実績
(94年4月～95年3月迄)
140,980kg でした。

アルミ缶店頭 回収実績

(横浜市内スーパー106店舗)

5月回収実績
63,430kg
でした。

平成6年度回収実績
(94年4月～95年3月迄)
542,240kg でした。



組合員紹介 vol.5
古紙共済会
斉藤 初太郎さん
〒235 磯子区杉田坪谷2-12-5002
☎ 776-13393
斉藤さんがこの仕事を始めたのは昭和53年頃で、その前は別な仕事をしていました。
最初は紙のことが分から

なかつたので、福田紙業の社長に教えてもらいながら少しづつ覚えていったそうです。当時は4人でやっていたが、現在は6人で仕事をしています。
集団回収をしている自治会やPTAの役員さんには年に何回か現在の市況の説明や、問屋の現場などを見せたりしています。
これからは「ゴミ」になっている古紙を少しでも多く資源とするために回収量をもっと増やしていきたい。そのためにも、もっと勉強しなくちゃね」と話してくれました。

南まつり20周年記念
南区の活気と魅力の新企画

第20回 南まつり

日時：7月29日(土)・30日(日)
午後3時～午後8時30分
会場：蒔田公園(雨天中止・小雨実施)

出展内容 ● 250店の大フリーマーケット・縁日広場・バザー会場／ファイバーリサイクル(古布・古着の回収と販売)・輝きのファンタジー絵灯籠の展示 etc……。

お問い合わせ ● 南区役所地域振興課
☎ 743-8191・8192 まで。

リサイクルに伴う標準価格表

(平成7年6月現在)
(取引条件により多少の変化はあります。)

品名	買入金額	業者の売値
新聞	1kg 0～1円	1kg 7円
雑誌	1kg 0円	1kg 2円
段ボール	1kg 0円	1kg 7～8円
衣類くず	1kg 0～1円	1kg 5円
アルミ缶	1kg 5～15円	*アルミ缶のみを選別した場合

★この価格は、500kg以上集まる団体に適用されます。(個別回収は適用外) ★業者の売値は、6月25日「日経新聞」より。

集団回収以外の段ボールの標準回収手数料

- ★引越しなどは、量にかかわらず1回3000円
- ★商店・会社等は定期回収500kg以下、1回1000円～2000円。500kg以上、3000円以上。但し、段ボールはただでストック場所は車両の付けられる場所にストックすることを前提とします。(この価格は、組合員が実際頂いている回収手数料を、調査したものです。)

エコサイクル 12か月

第7回

韓国の 資源回収

6月中旬に韓国へ行つて来ました。目的の1つは団地でのリサイクル現場を見ることです。ソウル特別市から地下鉄で30分位の京畿道富川市遠東区という人口約36万人の町へ、きつかけを作られた金さんに案内してもらいました。遠東区は高層住宅群がたかさんあり、片道4車線の広い道路が通る近代都市です。ところで京畿道は神奈川県を友好都市として交流をしているの

です。県立三ツ池公園には、韓国から運んだ松材や石を使つた、素晴らしい建物と庭ができていますから、ぜひ行つてみてください。
さて、団地では行きあわせだ日ガ資源回収の離りで、女の人たちが地下室から段ボールなどを運び上げて、計量をしているところでした。狭い集合住宅に資源置場があるのはとてもいいと思いました。回収品目は紙・布・アルミ・鉄・ビン・紙・プラスチック、ふたも集められます。プラスチックはベリトポトル・塩ビポトル・おもちゃやカッなどに分けられ、再使用されます。ビールビンは40ウォン(約4.5円)・一升ビンは100ウォン(約14.5円)で、プラスチック以外は皆売却して、住民組織に還元されるので、各棟熱心に取り組んでいるそうです。団地の外の町に入ると、個人

で、緑色環境と印刷された廃油石けん、古紙のロールペーパーに交換していました。6個位抱えている人もいて、これくらい選るとはげみになりますよね。韓国は今年1月から全国一斉に、袋によるゴミ収集の有料制がはかれました。増加の一方をだるゴミをなんとか減らそうと、市民も賢明です。それにしても町にゴミが少ないのには感心しました。ササキ三ツ川
=====
番外 ササキさんのあすめの本「アジア三事情」
孫永 啓著 中央法規出版
韓国をはじめ、アジア各国のリサイクル文化論。学びあうリサイクルの知恵。再資源化への道。著者は来日研究生活11年の社会学・国際政治学者。廃棄物問題において、現場に浸りおける調査をする徹底した「現場主義」とする。



緑色環境